

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 教育学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	張 鶴 鳳
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
中国人日本語学習者の日本語文章の理解・記憶に及ぼす説明予期の効果 —理解モニタリングの観点に基づく日本語習熟度を設定した実験的検討—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	松 見 法 男	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	永 田 良 太	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	松 本 仁 志	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、中国語を母語とする日本語学習者（以下、学習者）が日本語の文章を読む時、自らが読んだ内容を後で他者に説明しようとする意識を持つこと、すなわち説明予期が、文章の理解と記憶にどのような効果をもたらすかを、日本語母語話者（以下、母語話者）との比較を通して実験的に検討したものである。具体的には、説明予期を読解前教示として与えることが、メタ認知である理解モニタリングを促進するかどうかについて、矛盾検出法を採用して検討した。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、文章の理解や説明予期に関する先行研究を、母語と第二言語の両面から概観した。次に、理解モニタリングの定義と測定法について言及し、母語と第二言語を取り上げた矛盾検出法に関する研究を吟味した。そして、先行研究の問題点を指摘した上で、本研究の研究課題を提示した。</p> <p>第2章では、4つの実験について述べた。実験1～実験3では、日本語の習熟度を設定し、説明予期の教示がテスト予期の教示と比べて、文章内容の理解と記憶を促進するか否かを検討した。その際、矛盾検出法を用いて矛盾効果の有無を確認し、読解中の理解モニタリングの働きを推察した。母語話者を対象とした実験1、上級学習者を対象とした実験2、中級学習者を対象とした実験3を行った結果、次の2点が示唆された。(a) 母語話者で常にみられる自発的な理解モニタリングの働きは上級学習者でもみられるが、中級学習者は、言語情報の処理により多くの認知資源を配分するため、自発的な理解モニタリングを十分に働かせることが困難である。(b) 文章内容を他者に説明しようとすることで、母語話者も学習者も言語情報の処理に多くの認知資源を配分するが、上級学習者は文章全体と重要な情報の双方で理解と記憶が促進される一方、母語話者と中級学習者は、それぞれ原因が異なるものの、文章全体でも重要な情報でも理解と記憶が促進されることはない。</p> <p>実験4では、中級学習者を対象に、文章を2回読む条件下で、説明予期の教示がテスト予期の教示と比べて、文章内容の理解と記憶を促進するか否かを検討した。実験では、矛盾のある文章を材料として用い、読解中の理解モニタリングの働きを推察した。その結果、中級学習者は、初読時に言語情報の処理に注力するが、再読時には理解モニタリングに多くの認知資源を配分でき、先行文章を再処理することでその働きが促進されることがわかった。中級学習者では、再読条件において文章内容の理解と記憶が促進され、説明予期の効果が生じるといえる。</p> <p>第3章では、4つの実験結果をまとめ、日本語の習熟度と説明予期の効果、読解中の理解モニタリングの関係について総合考察を行った。そして、本研究の学術的意義と日本語教育への示唆を述べ、</p>			

今後の課題に言及した。

本論文は、以下の3点で高く評価できる。

1. 学習者を対象とし、日本語の習熟度を設定した上で、母語話者とも比較しながら、第二言語としての日本語の文章読解における説明予期の効果を、理解モニタリングの観点から検討した点である。
2. 読解中の理解モニタリングについて、「自発的な理解モニタリング」と「意図的な理解モニタリング」の2つを区別して定義し、特に中級学習者の説明予期を伴う読解過程を詳しく考察した点である。
3. 説明予期の効果を生み出す理解モニタリングの働きを、オンライン測定法の一つである矛盾検出法を採用して解明し、第二言語の文章理解研究における方法論上の発展に寄与した点である。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5 年 2 月 13 日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)